

出来上がったログハウスの前で記念撮影！いよいよ、子どもたちがこの施設で自然体験活動を開始します。7年の歳月をかけて、夢を実現した帰山氏はとても意志の強い方だと感じました。この施設を受け継いで、多くの青少年に自然体験活動の機会を提供していきたいと思います。



できたぞ
ぼくらのログハウス
広報としま
みのり保育園 63.8.5号
(池袋本町3丁目)



作業が終わってほっと一息。前列左端が帰山園長。

道もなく、もちろん水も電気も通っていないなかった長野県佐久市の山の中に、私立みのり保育園とその関係者が手作りのログハウスを作った。発端は7年程前のこと。同保育園の帰山祐子園長が佐久市を訪れた際、「都会の子どもたちを、こんな自然の中に連れてきたい」と土地購入を思いついたのだ。募金を募る

こと3度、59年には山林1.4ヘクタールを買い、「大自然のひろば」と銘打って整備をすすめてきた。ログハウス建設に着手したのは、61年7月。風で倒れた木を運び、皮をむいて、削って、切つて……。丸太をつぎつぎと組み合わせるこのログハウス作りに参加したのは、保育園の在園児・卒園児とその父母、園の職

員、ボーイスカウト豊島12団の団員などを中心とした多くの仲間たち。人が人を呼び、様々な広がりを見せたこの2年間だった。「初顔合わせでも、一つの目的で作業をすると、不思議とよいチームワークができるもの」と帰山園長。「せっかくの休日を使って作業に参加してくれた人たちに、感謝の気持ちでいっぱい。でも、みんな楽しんでやってくれたと思います」。

保育にあたっては、常に「命を大切にすること、仲間を大事にすることを身につけさせた」とするこの保育園。園児たちが大自然の広場で貴重な体験を重ねていく日も近い。とりあえず、今月8日から卒園生キャンプを。在園児は、準備万端整えたうえで、9月に。大自然の懐に抱かれて遊んだ子供たちは、きっと素晴らしいお土産をもって都会に帰ってくることだろう。